

新岡垣風土記

第449回

ミャンマー（ビルマ）と岡垣⑦

岡垣歴史文化研究会 入江 東樹

〈ビルマ戦での2人の兵士のこと〉

①原区の市津猛さんのこと

岡垣町老連会報「ねんりん」(26号、平成9年発行)で、「戦争体験記」として、「満州(中国東北部)からビルマへ」を書かれている。それを要約したものを紹介する。

昭和12(1937)年に入隊し、満州での通信中隊に配属された。同14年4月、除隊となった。同年10月に召集され、ビルマに出征した。

龍兵団として、ビルマ東部から、中国の雲南省に入り、拉孟守備隊に加わった。そこで、満州の時と同じように、通信隊員として、松井聯隊通信中隊に編入された。

拉孟守備隊は高台にあって、4つの陣地に分かれていた。その中の松山陣地付けとなった。

ここで約4カ月、戦闘に明け暮れたが、約千人の兵士が戦死し、

拉孟守備隊は、昭和19(1944)年9月初旬、全滅した。

市津さんの通信隊は、守備隊の全滅前に運よく脱出できた。

その後、転進と撤退を繰り返した。通信隊の20名で、英印(イギリスとインド)軍と戦うこともあった。

終戦を知らされ、昭和21(1946)年6月、ビルマの隣国タイから帰国することになり、横浜の浦賀に上陸した。毛布1枚での帰郷となった。

今の戦争を知らない若い世代は、幸せだと思ふ。戦争とは死との戦いである。そんなことを繰り返したくないと語っている。

②糠塚区の入江登のこと

登は、私の叔父(父の弟)である。私が2歳の時、ビルマに出征したので、私は叔父のことは覚えていない。仏壇の上に叔父の写真(遺影)が

掲げられていたので、私は写真を見ながら育った。

叔父はビルマで戦死したが、岡垣村で作成されていた「戦死者名簿」には、「昭和19(1944)年10月、ビルマのシャン州ラシオで戦死した。菊8908部隊に所属していた」と書かれていた。

福岡県庁の福祉労働部保護・援護課に戦没者の兵籍を問い合わせると、詳しいことが分かった。それによると、叔父は、

昭和18(1943)年12月1日、現役兵トシテ、野砲兵第56連隊補充隊入営。同日、□(原文ママ)中隊編入。

翌年3月9日、除隊。

同年5月24日、現役兵トシテ、野砲兵第86連隊ニ臨時召集ニ依り入隊。26日、山砲

兵第18連隊要員トシテ屯営出発。29日、門司港出帆。6月29日、昭南(※シンガポール)上陸。8月1日、昭南出発。4日後ニ、馬來泰(※マレーシア)国境通過。9月8日、泰緬(※タイとビルマ)国境通過。同日、山砲兵第18連隊第1中隊編入。10月12

日、北シャン州ラシオニ於テ、投下爆弾破片創ニテ戦死ス

となっている。

私が4歳の頃、昭和21(1946)年だったと思うが、箱を抱えた人を先頭に10人ぐらいの人たち(その中に私もいた)が、山田区北側の村道を歩いていた記憶がある。遺骨を引き取りに行つての、帰り道だったように思う。

かつての糠塚の盆踊りは初盆の家の庭先で踊っていた。踊り子は青年団(男女)が浴衣を着て、編笠を被り、口にはマスクみたいな口隠しをしたので、誰が踊っているのかよく分からなかった。

私宅の庭で踊りが行われた記憶があるので、それは叔父を供養するための踊りだったと思う。

